

# 令和2年度 学校経営方針

～ 国、県、市の教育の動向や児童、家庭、地域の実態を踏まえて ～

## 1 本校の使命

変化を予測するのが困難になり、経験したことがない問題の解決に挑み続けなければならない時代を、賢さをもって、心豊かに、たくましく生き抜く子供を育成するために、よさを主体的に発揮して困難を乗り越え、目標を達成しようとする資質や能力を子供に育む教育活動を組織的・協働的に創造していくことが本校の使命である。このことを踏まえて本校の教育目標を以下のように設定し、その具現化を目指す。

**教育目標 …… 自ら気づき、考え、実行し、社会を生き抜く力を身に付けた子供の育成を図る**

「自ら気づく」とは：自らが問いをもち、働きかけて、目的や目標をみだし、よさを感じ取ること

「自ら考える」とは：状況を踏まえながら、見通しをもって考え、自他を尊重する生き方を創造すること

「自ら行動する」とは：自ら思いや考えを表現したり、進んでかかわったり、振り返ったりすること

## 2 経営の基本方針

本校は、平成29年度より「互いのよさをみがき、ともに目標を実現しようとする子供の育成」を目指してきた。今後は、以下に示すこれまでの取組を発展させた新たな展望をもって教育目標の具現化を目指す。

**重点目標 …… よさを学び、やりぬく子供の育成** ※ 令和2～4年度における中期目標

- ・よさを学ぶとは、自他のよさを見だし、認め合い、目標の達成に生かそうとすること。
- ・やりぬくとは、目標を達成するために、失敗や困難を乗り越える体験（小さな成功体験）をつくること。

＜目指す子供像＞

- 学んだことを生かして方法や工夫を考える子供（学びひたる子供）
- きまりをまもり、学習や生活のかまえを整える子供（構えをもつ子供）
- よさを見だし、認め合い、共に高まろうとする子供（心を磨く子供）
- 目標をもって運動に親しみ、鍛えようとする子供（体を鍛える子供）

※ 学びひたり、構えをもち、心を磨き、体を鍛えることを通して「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を育む。



そして、以下に示す基本方針に基づいて「よさを学び、やりぬく子供」を育成する教育活動を展開する。

- (1) 知識を相互に関連付けたり、情報を精査したり、問題を見いだしたりするという観点を重視した質の高い問題解決的な学習活動を核にしたカリキュラム・マネジメントを展開し、目標を達成する喜びや楽しさを味わうことができる授業を積み上げる。
- (2) 教育活動に「切れ目」（指導の一貫性）と「格差」（指導の成果）が生じないように、四部会（学び・構え・心・体づくり）や学年部会の機能向上を図り、共通実践を徹底させる。
- (3) 福岡県教職員育成指標に示されたキャリアステージ等に応じた資質・能力を育成することができるように、重点目標と連動させた自己目標管理を生かした人材育成に取り組む。

## 3 目指す学校像、教師像、授業像

学びひたり、構えをもち、心を磨き、体を鍛える子供を育てるために以下の学校像、教師像、授業像を設定する。

＜目指す学校像＞

- 子供が、毎日安心して楽しく学び、満足感や達成感、有能感を味わうことができる学校
- 保護者や地域の人々が、子供を通わせたい、協力したい、応援したい学校
- 教職員が働きがいを見だし、意欲的、協働的、創造的に職務に取り組もうとする学校

＜目指す教師像＞

- 子供への愛情と教育に対する使命感及び責任感をもち、保護者や地域の人々から信頼される教師
- 自ら授業について学ぶ機会や場を求め、授業に関する構想力、展開力、評価力を磨き続ける教師
- 子供を取り巻く環境や発達等の状況をよりよく理解し、個を鍛え集団を高めることができる教師
- 組織の一員であるという自覚をもち、共通実践に誠実に取り組み、成果を追求しようとする教師

### <目指す授業像>

- 「できる・わかる」楽しさを味わい、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる授業
- 学びの系統性を踏まえて、子供が自ら考えたり、判断したり、表したりすることを重視する授業
- 自他のよさを生かし合い、協働して価値を創造する楽しさを見だし、深めることができる授業
- 開始と終了の時刻が守られ、「つかむ」「つくる」「深める」「まとめる」活動のまとまりが明確な授業

## 4 経営の中期ビジョン（成果指標）

国、福岡県、うきは市の教育の動向を踏まえながら、「本校の使命」を遂行するために、今後3か年（令和2～4年度）における中期ビジョン（成果指標）を以下のとおりとする。

- (1) 全国学力・学習状況調査（国語科、算数科）において平均正答率（標準化得点）が全国平均を1ポイント以上上回ること、及び全国体力・運動能力、運動習慣等調査の記録が全国平均を上回ることを目指す。
- (2) 「学びづくり」「構えづくり」「心づくり」「体づくり」に関する評価基準を作成し、学期ごとに実施する学校評価及び児童評価においては、平均スコア（4件法）が3.2を上回ることを目指す。
- (3) 重点目標と連動した自己目標管理に基づいた取組を振り返る面談の充実を図るとともに、県や市の教育センター等における研修を積極的に受講する体制を構築して、教員個々が自律的に成果と課題を踏まえた実践を連続、発展的に展開することを目指す。

## 5 経営の重点（具体的な方策）

「よさを学び、やりぬく子供の育成」という中期目標を達成するプロセスを、「基礎期」→「自立期」→「熟練期」の3段階で捉える。「基礎期」においては、教師が「よさを学び、やりぬく体験」を教え、学ばせる段階であることを踏まえて、本年度の経営の重点（具体的な方策）を以下のように設定する。なお、経営の重点（具体的な方策）を設定するに当たっては、「つながり」「まとまり」「やりぬく」の三つの方針を重視した。

- |              |  |
|--------------|--|
| <b>【方針1】</b> | <b>「つながり」を大切にする</b> …… 内容や方法の体系や系統性を踏まえたプランを構築する |
| <b>【方針2】</b> | <b>「まとまり」を大切にする</b> …… 学び合いを促すコミュニケーションの強化、充実を図る |
| <b>【方針3】</b> | <b>「やりぬく」を大切にする</b> …… 短いスパンで繰り返すPDCAサイクルを確立する   |



- (1) 新教育課程に対応したカリキュラム・マネジメントを展開する。
  - ・「書く」活動及び学習の「振り返り」を重視した学力向上プランの共有化を図るとともに、共通の問題の解決に協働して挑む学級活動の授業づくりに関する手引きを作成し、活用する。 「つながり」
  - ・質の高い問題解決的な学習活動を踏まえて作成した授業参観シートを用いた「学び合い」の日常化を図るとともに、コーチングを生かした授業づくりについての「学び合い」を実践する。 「まとまり」
  - ・「書く」活動及び「振り返り」を重視した学習指導の実践については、学年部経営案や週指導計画案の活用を工夫してPDCAサイクルを回す。学級活動の授業づくりに関しては、「事前の活動」→「話し合い活動」→「事後の活動」のプロセスを学期に3回以上は設定する。 「やりぬく」
- (2) 4部会（学び・構え・心・体づくり）や学年部会の最適化を図り、共通実践を徹底する。
  - ・重点目標に関する評価基準（P16、17参照）を基に学年部経営案（P18、19参照）を作成して、学びづくり、構えづくり、心づくり、体づくりにおける具体的な方策を明らかにする。 「つながり」
  - ・リーダーを中心に、若年教員、中堅教員、エキスパート教員の持ち味を学び合う部会運営の工夫改善や、重点目標の達成に向けた構想や改善策を出し合う学年部会の運用を工夫する。 「まとまり」
  - ・「学年部経営案を基に実践する→実践を振り返る→学年部経営案を見直す」というサイクルを月単位で回すことができるようにする学年部会の活用や「やりぬきカード」の実践を工夫する。 「やりぬく」
- (3) 職員個々の自律的な学びを促し、資質や能力の向上を図るOJT等の人材育成に取り組む。
  - ・自ら資質や能力を高め成長する自律的な学びを支援するためのOJT推進計画（P20参照）を作成するとともに、個人目標と重点目標の統合を図る自己目標管理のシステムを構築する。 「つながり」
  - ・若年教員（1年目）が取り組む授業づくり研修に多くの職員が関わる仕組みをつくとともに、県教育センターや市教育センターの調査研究等における研修や実践を共有する機会をつくる。 「まとまり」
  - ・「自己評価表作成→実践→振り返り」のサイクルを学期単位で繰り返し、資質や能力の高まりを自主的に検証する。サイクルの各段階で、キャリアに応じた必要最小限の指導・助言を工夫する。 「やりぬく」

